

令和8年度（2026年度）有田川町青少年育成町民会議主催

有田川町少年メッセージ

優秀作品（順不同・敬称略）

親の大切さ

八幡中学校1年 林和可奈

「いってきます」が言えなかった日

吉備中学校1年 米田陽真

「人とのつながり」と

「ありがとうの気持ち」

金屋中学校2年 上山 駿

自分の人生を生きていく

石垣中学校2年 高垣 芽生

SNS

吉備中学校2年 湯田 実来

その一歩を積み上げて

吉備中学校3年 嘉成 潤羽

過去を伝える

吉備中学校3年 友石 はる

講評

有田川町少年メッセージ審査委員長
八幡中学校 校長 島田 万喜子

有田川町少年メッセージ発表会では、毎年中学生の心の声に胸を熱くします。

今年は、有田川町で606作品の応募がありました。メッセージには、中学生が家庭や学校、地域社会など自分を取り巻くさまざまな人々との交流の中で感じたことや、社会問題について考えたこと、SNSなどのネット社会やAIについて感じたことなど、多岐にわたる内容がつけられていました。

この発表会は、次の世代を担う中学生が、日常生活の中で何を感じ、何を考え、どんな希望を抱いているのかを自分の言葉で広く社会に向けて語ることを通して、青少年に対する理解と関心を深め、健全育成を図ることを目的としています。

町社会教育課（金屋庁舎）

しかし、それらの作品に触れるたび、中学生の繊細で鋭い感性に驚かされ感動すると同時に、中学生が真つすぐな目で私たち大人の日常の姿を見つめていることが分かり、身の引き締まる思いがするのはきっと私だけではないでしょう。私たち大人には、彼らに見つめられているという自覚が必要です。彼らのメッセージを受け止め、それに応える責務があると思います。

8月30日（日）に開催された発表会では、応募作品の中から選ばれた7作品の発表がありました。選出された方々のメッセージは、どれも全ての作品を代表するような素晴らしいものでした。大舞台での発表は、根気強く練習することが必要だったでしょうし、さぞ緊張もしたことでしょう。心に残る発表をありがとうございました。

この発表会が、これからも有田川町を含む社会の未来を考える、貴重な機会となることを祈念し、私の講評といたします。